

総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 原子力小委員会 放射性廃棄物ワーキンググループ（第11回）-議事要旨

日時：平成26年4月30日（水曜日）9時00分～11時00分

場所：経済産業省本館17階国際会議室

出席者

廃棄物ワーキンググループ委員

増田委員長、小林委員、崎田委員、高橋委員、辰巳委員、徳永委員、朽山委員、西川委員、伴委員、吉田委員

（※高橋委員の「高」は、はしごだか）

（※徳永委員「徳」は、旧字体。「心」の上に「一」が入る）

経済産業省

高橋電力・ガス事業部長、後藤大臣官房審議官、伊藤放射性廃棄物等対策室長

オブザーバ

山路原子力発電環境整備機構理事長、久米電気事業連合会専務理事

議題

1. 地層処分技術WGの現況について
2. 放射性廃棄物WG中間とりまとめ（案）について
3. その他

議事要旨

朽山委員（地層処分技術WG委員長）から、資料1について説明。

委員からの御質問

最終処分地の選定に当たっては、段階的に調査を進める中で回避すべき地域を特定し、最終的に回避対象として特定されなかった地域が適地となるということか。また、一般的に適地があるということと、適地を特定することとは別の問題。現時点においては、不適ではない地域を示すところまでしか言えないということか。

朽山委員（地層処分技術WG委員長）

地層処分に求められている地質環境はごく普通の地下の条件であり、火山や断層活動等の天然事象により、こうした地質環境が著しい影響を受ける地域については、不適地として最低限避ける必要がある。その上で、段階的なサイト選定調査を進めることによって、候補地を絞り込んでいくことができる。概要調査の終了までには、こうした天然事象の影響を明らかにしていく。なお、科学的により適性の高い地域を示すためには、技術WGの結果を踏まえ、更なる検討が必要。

事務局（伊藤放射性廃棄物等対策室長）から、資料2について説明。

委員からの御意見

「公共的討議」や「安全論理」等の表現について、もう少し分かりやすく記述した方が良い。

資源エネルギー庁が実施している「双方向シンポジウム」が例示されているが、本報告書も踏まえつつ、こうした従来の取組もしっかり評価・レビューを行い、今後の事業に反映していくべき。

第三者評価について、原子力委員会が担うのが有力な選択肢とされているが、原子力委員会はこれまで原子力推進を担ってきた組織であり、ここが行司役として第三者として評価を行うといっても国民は納得しないのではないかと。信頼性の確保という観点から第三者評価が必要なので、政治的・社会的判断として避けた方が良い。

23ページで、脱原発政策が処分事業の推進に与えた影響に関するスウェーデン処分実施主体関係者からの発言の引用は適切なのか。我々がスウェーデンの経験から学ぶべきは、如何に粘り強く、謙虚に取り組んでいくかということである。

委員からの御意見

パブリックコメントに寄せられた意見に対して、単に回答を書くのではなく、まずは真摯に耳を傾けるべきであり、審議をやり直すべき。

国が科学的な有望地を選定することは賛成していたが、立地にふさわしいすべての条件を満たす地域が科学的に選定されることが前提。本日の技術WGの報告では、科学的な有望地を示したことにはならない。

パブリックコメントでは、総量管理をして放射性廃棄物をこれ以上増やすべきではないという意見が多かったわけで、これを真摯に受け止めるべき。

学術会議の回答をもっと尊重すべき。現世代の責任のあり方、可逆性・回収可能性の具体化、住民参加のあり方等について、もう一度議論し直すべき。

今後の議論に向けた課題を中間とりまとめに盛り込むべき。

原子力委員会は第三者として国民から受け止められないのではないか。その際には工夫が必要で、この場でしっかりと詰めていかなければならない。

最終的に委員長に一任してまとめることは良いが、審議の継続をして欲しい。（なお、修正案を提示してもらった上で最終的に自ら判断をしたい。）

委員からの御意見

パブリックコメントでは、広範な御意見をいただいたが、こうした意見はいずれもこの場で話し合ってきた内容であり、こうした視点を社会としても重要と認識されていることがパブリックコメントでは再確認できた。

今回の中間とりまとめでは、地域の中で意見を聴くプロセスを明確に位置づけることができた。今後この内容に関して、関係者がしっかりと取り組んでいくことが重要。

原子力委員会による第三者評価については、これからどのように組織を作るのかを記述しないと我々の考えが伝わらなくなる恐れがある。原子力委員会が大幅な内容の見直しを言うことを強調した上で記述は残すべき。

委員からの御意見

選定プロセスについては、現段階での知見を率直に評価し、客観的に報告されている。可逆性・回収可能性を担保するという点を明確にすることが極めて重要であり、この報告書にそれがしっかりと記載されている。

原子力委員会については、報告書の立場をきちんと条文化したということであれば、原子力委員会を一つの選択肢として入れることは問題ない。

委員からの御意見

パブリックコメントでいただいた御意見についてはもっと重く受け止めるべき。

原子力委員会の第三者評価での扱いについては、今までの原子力委員会がどのように変わったのか、国民にはなかなか伝わらないのではないか。今までと全く変化がないと受け取られかねず、結果として信頼感をなくす可能性がある。

委員からの御意見

放射性廃棄物の減容化・低毒化の研究開発については、国が資金や人材を投入して、先頭に立って取り組んでいくべき。

使用済燃料の中間貯蔵の問題の解決は喫緊の課題であり、新たな地点の可能性について早急に検討を開始すべき。

国が前面に立つというが、その具体化が重要。最終処分に関する基本方針や最終処分計画の改定、科学的知見に基づいた有望地の選定等、いつまでに何を行うのか道筋を明確にすべき。閣僚会議の開催も含め、腹を据えて実行に移すべき。

現世代同士の議論と合意と責任ある行動が今求められている。世代間の問題はその次。原子力の活用があって今の日本があるわけだが、特に立地地域としては安全の面での不安や課題を抱えている。立地地域だけの話ではなく日本全体がこの問題について考えることが必要。原発が良いか悪いかという問題とは別に、政府が責任を持ってこの問題に体を張って進めなければ解決しない。

委員からの御意見

日本の地質環境についての情報も併せて提供することによって、地層処分に対する入り口部分での不安が払拭されるのではないかと。

可逆性・回収可能性についての技術的部分は新しい考え方であり、今後進めるべき課題として提示することが必要。また、いつまでに何を進めていくのか今後の流れについても整理されると良い。

委員からの御意見

中間とりまとめとしてこれまでの議論をまとめるということも含め、放射性廃棄物処分に関する考え方を評価するプロセスが重要。こうしたプロセスを通じて、現時点での課題が再認識することができたことは意義がある。今後、例えば、可逆性・回収可能性を具体的にどう担保するのかなど、そこからやらなければならないことを明確化していくのがこれからの課題。

増田委員長

今回のWGでは、それぞれ考え方の違う委員の方々に集まっていたが、これまで13回に亘って審議を重ねてきたが、互いの間合いが詰まった部分がある一方、交わらない部分も多く残っていると思う。最終処分の問題は今まであまり審議がなされてこなかったが、今回のWGでの審議を通じ、こうした部分が明らかになってきた。特に、3.11の事故以降、政府や電気事業者等に対する不信感が高まる中、それぞれの立場の方々との信頼感を醸成していくことは重要であり、そのためには多くの時間と議論をする場が必要であるが、これまでそうした取組がほとんどなされてこなかったのだと思う。こうした状況の中で、お一人の委員からやり直すという意見がありましたが、私としては、これまで議論した結果を明らかにする上でも中間とりまとめはすべきであると考えている。

今回122人からパブリックコメントの意見が寄せられているが、その多くは、既にWGで審議してきた論点に重複しており、中間とりまとめの中に含まれていると理解。

なお、原子力委員会については、国会審議がこれからという状況であり、第三者性があるのかどうかという懸念も踏まえ、記述の仕方については工夫が必要。

また、残された課題を中間とりまとめに盛り込むべきとの御意見があったが、このWGでは、残された課題が非常に多い中で、委員の中で意見が交わったところを中間とりまとめとしてまとめることができた。この提言を踏まえて、これを今後どう取り扱うかは政府の判断。

具体的には事業者が一義的な責任を有しているが、政府全体として腰を据えた取組をしなければならない。大きな原子力政策の中で各論を切り取った議論はどの地域でも成り立たない。全体として総論的な話が相当丹念に行われる必要がある。こうした点は、各委員の共通認識ではないか。

できるだけ各委員から御発言いただいたことも踏まえ、とりまとめることとしたい。最終的に中間とりまとめの作業は委員長にお任せいただきたい。本日の審議を踏まえ一部修正の上、中間とりまとめを後日各委員にお送りをして、最終的に経済産業省のホームページにて掲載することとしたい。

(上記について、委員の皆さんから御了解をいただいた。)

高橋電力・ガス事業部長から挨拶

以上

文責：事務局（資源エネルギー庁放射性廃棄物対策課）

関連リンク

[総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 原子力小委員会 放射性廃棄物ワーキンググループの開催状況](#)

[動画1 \(YouTubeへリンクします。\)](#) 

[動画2 \(YouTubeへリンクします。\)](#) 

お問合せ先

資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 放射性廃棄物対策課

最終更新日：2014年6月12日